

遭難防止・安全教育委員会 (担当理事:徳重、若木、尾手、

長谷川)

活動報告

- 1) 現在仕様のヒヤリ・ハット報告書を使用する。「統一フォーマット方式」
- 2) 機関紙に報告書を掲載し、安全登山の参考にする。「会・個人」に確認をとる。(掲載には今後の検討を要する)
- 3) 「遭難の原因」を引き続き継続する

委員会の事例に対し、公平かつ安全性を高める評価、コメント出来るように進めていきたい、又安全登山の活動を推進する。

・第8回、6月21日(日)AM 与野本町コミセン・理事8名、委員14団体合計24名出席。全国遭難対策部部長より「非常事態宣言」が発令された背景と遭難事故全般について講演があった。・遭難事故の要因に関して、所属する会における山行を事例として説明した。ポイントとしては 雨の予報(天候の異変) 出発時間の遅れ 装備(アイゼン)の不携帯状態での雪の斜面のトラバース・・・このようなケースでは山行は中止すべき!を紹介。「事故を起こす体質」に関して県連救助隊長により詳細な説明を行なった。・「ヒヤリハット報告」について会員相互の安全意識の高揚のため、継続し提出していくことを確認。

・第9回、11月29日(日)AM 埼玉県労働会館・理事13名、委員16団体28名、他参加2名(群馬・神奈川)出席。大雪山系トムラウシ山・美瑛岳遭難事故について(県連事故と想定して考察)概要について理事長より説明後、出席者を5班に分け自分たちが同コースを登山するとしたならばパーティーとしてどのような準備と行動をするかについて検討し、各班発表。<http://www.justmystage.com/home/tozans/html/contact.html>
詳細はHP 機関紙、第8回148号・第9回153号。・ヒヤリハット5事例報告。・県連盟以外の遭難救助要請について救助隊長から説明。

活動方針（案）

遭難防止・安全教育委員会

- 1) 現在仕様のヒヤリ・ハット報告書（P 6 4）を使用する。「統一フォーマット」
- 2) 機関紙・HP、報告書を掲載し、安全登山の参考にする。
- 3) 「ヒヤリ・ハットの原因」・各会（団体）に部会等を立ち上げて頂き、事故の軽減を目指す。
「ヒヤリ・ハット報告書」・委員会にて取り上げた事例に対し、公平かつ安全性を高める評価、コメント出来るように進めていきたい、また、安全登山を推進する。